



十二月 (大) 師走 鬼宿

十一月七日大雪の節より
月命戌子七赤金星の月
暗剣殺西の方

旧 十月大
十一月小

日	曜日	干支	九星	行事	旧暦	六輝	中段	其宿	下段	日出入	月史	満潮	干潮
1日	火	つちのえとら	一白	映画の日、鉄の記念日、世界エイズデー、歳末助け合い運動、小つち 旧十月大	十七	友引	たいら	室	大くわ	6.32	17.06	7.01	16.49
2日	水	つちのと	九紫		十八	先負	さだん	壁	百事吉	6.33	17.52	6.23	16.49
3日	木	かえたと	八白	障害者週間、秩父夜祭	十九	佛滅	とる	奎	天おん	6.34	18.44	6.59	17.15
4日	金	かのと	七赤	人権週間、旧えびす講、旧誓文払い、不成就日	廿	大安	やぶる	妻	天おん	6.35	19.42	7.39	18.13
5日	土	みづのえとら	六白	納めの水天宮	廿一	赤口	あやぶ	胃	神よし	6.36	20.44	8.25	18.46
6日	日	みづのと	五黄	小田原秋葉権現火防祭	廿二	先勝	なる	昴	天おん	6.36	21.48	9.16	19.29
7日	月	きのえとら	四緑	大雪一時〇九分、十方ぐれ入り	廿三	友引	なる	畢	大みやう	6.37	22.54	10.15	20.40
8日	火	きのと	三碧	●下弦九時三七分、こと納め、針供養、納めの薬師、成道会、皇后誕生日、京都了徳寺大根焚き、漱石忌	廿四	先負	おさん	觜	神よし	6.38	22.22	11.18	22.42
9日	水	ひのえいぬ	二黒	世界人権デー、納めの金毘羅、大宮水川神社大湯祭、一粒万倍日	廿五	佛滅	ひらく	参	五むじ	6.39	22.53	12.17	20.04
10日	木	ひのと	一白		廿六	大安	とづ	井	大みやう	6.40	23.25	1.08	20.04
11日	金	つちのえ	九紫	一粒万倍日	廿七	赤口	たつ	鬼	くま	6.40	23.57	2.14	20.49
12日	土	つちのと	八白	岡山最上稲荷火焚祭、不成就日	廿八	先勝	のぞく	柳	きこ	6.41	24.33	3.20	21.31
13日	日	かえと	七赤	三隣亡	廿九	友引	みつ	星	きこ	6.42	25.14	4.15	22.13
14日	月	かのと	六白	東京高輪泉岳寺義士祭	卅	先負	たいら	張	●	6.43	26.01	5.05	22.55

一年の締めくくりの月であり、年間を通じて最も日の短い月である。この月の別名として「師走」の呼称が通例になっているのは、やはり一般に師匠までも走り出す月、という人間味を伴った語感のせいであろうか。

年の最後の月として、各地でいろいろな行事や祭祀があるが、だいたいが納めや供養である。

今年一年間の喜び、反省等、それらを思い返し、整理することで、来る年への指針となし期待を持ち、そして自戒するべきものがあれば心に誓うべきであろう。

【祭】歳暮とは元来年の暮のことであるが、日ごろ世話になっていたり人々や親戚などへの、一年間のお礼心としての贈り物がついてくるから「お歳暮」というならわしになった。

正月始めは、この月の八日か十三日から、正月を迎える準備をし始めることを

15日	火	みづのえと	五黄	●朔一時一七分、年賀郵便特別扱い、東京世田谷ポロ市 旧十一月小	朔	大安	さだん	翼	大みやう	6.43	16.29	8.13	17.07
16日	水	みづのと	四緑	天一天上	二	赤口	とる	軫	十し	6.44	16.29	8.13	17.57
17日	木	きのえとら	三碧	東京浅草観音歳の市、伊勢神宮月次祭、奈良春日大社若宮おん祭	三	先勝	やぶる	角	ちいみ	6.44	16.30	9.09	17.57
18日	金	きのと	二黒	納めの観音	四	友引	あやぶ	亢	大みやう	6.45	16.30	9.57	18.21
19日	土	ひのえとら	一白	不成就日	五	先負	なる	氐	母倉	6.46	16.31	10.36	19.00
20日	日	ひのと	九紫		六	佛滅	おさん	房	神よし	6.46	16.31	11.10	19.44
21日	月	つちのえいぬ	八白	冬至一九時〇二分、ゆず湯、納めの大師	七	大安	ひらく	心	ちう日	6.47	16.32	11.39	20.01
22日	火	つちのと	七赤	●上弦八時四一分、一粒万倍日	八	赤口	とづ	尾	ちう日	6.47	16.32	12.06	20.41
23日	水	かえと	六白	一粒万倍日	九	先勝	たつ	箕	—	6.48	16.33	12.31	21.13
24日	木	かのと	五黄	クリスマス・イブ、納めの地藏	十	友引	のぞく	斗	五むじ	6.48	16.33	1.03	21.47
25日	金	みづのえとら	四緑	クリスマス、終い天神、蕪村忌、三隣亡	十一	先負	みつ	牛	大みやう	6.49	16.34	1.59	22.36
26日	土	みづのと	三碧		十二	佛滅	たいら	女	●	6.49	16.34	2.55	23.02
27日	日	きのえと	二黒	不成就日	十三	大安	さだん	虚	大みやう	6.49	16.35	3.53	23.31
28日	月	きのと	一白	官庁御用納め、納めの不動	十四	赤口	とる	危	十し	6.50	16.36	4.51	24.14
29日	火	ひのえとら	九紫		十五	先勝	やぶる	室	大みやう	6.50	16.36	5.50	24.52
30日	水	ひのと	八白	○望一二時二八分	十六	友引	あやぶ	壁	神よし	6.50	16.37	6.47	25.39
31日	木	つちのえとら	七赤	年越し、大はらい、除夜の鐘、男鹿なまはげ、出羽三山松例祭	十七	先負	なる	奎	母倉	6.50	16.38	7.41	26.29

いう古い習慣で、すす払いから着手したものである。二十七日前後に二十四節氣の一つ「冬至」がある。この日北半球では最も日が短く、この日を境に日脚が延びるので、地方によりそれだけの行事を持つという「ゆず湯」に入る習慣は全国的に知られている。

二十五日はキリストの降誕日で、その前夜の「クリスマス・イブ」ともに、欧米では正月よりも盛大に祝う。わが国でもキリスト教とは関係なくツリーを飾ったり、プレゼントをし合ったりする家庭も多い。

新年を迎える正月の飾り物は、三十日までには用意を終えるが、二十九日は苦節り、三十日は一夜飾りといひ、どちらとも年神様に失礼に当たるといふので、なるべく早めの準備を心掛けるべきである。

大晦日(おひそか)の夜は神棚にお灯明をあげたり、年越しそば(みそそば)を食べたり、神社や寺院に参詣したりし、その土地土地によって独特の習慣を持っていたりする。